

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第97号(2015. 4. 1)
事務局川西地区自主防災会

「だれもが安心できる避難所づくり」 ～女性の視点を生かし、より安心、安全に！～

香川県婦人団体連絡協議会
会長 野田 法子

第3回国連防災世界会議が、2015年3月14日から18日まで、仙台市で開催されます。第1回世界会議は1994年に横浜市で、第2回は2005年神戸市で開催され、「兵庫行動枠組（HFA）」が制定されました。第3回の会議は、今後の新たな国連防災の枠組を制定するための東日本大震災の仙台で開催されました。

3. 11の大震災・大津波・原発事故という未曾有の災害から丸4年、香川県は昔から自然災害の少ない住みやすい地域として防災に対する市民意識も比較的低かったことは否めない事実です。しかし、阪神淡路大震災以降、全国で起こる自然災害に対して災害に対する意識が高まり、東日本大震災はとくに高齢者や女性・子どもが災害弱者であることを改めて突き付けてくれたことに加えて医療・施設入居者救出のために、職員の犠牲が多かったことも忘れられません。

相次ぐ大震災から私たちは数多くのことを学び、地域活動に根差している女性団体を中心に、女性の視点から防災対策を考え災害弱者を守る活動を展開したいと「高松市婦連女性防災会議」を立ち上げました。

高松市婦連女性防災会議は趣旨・目的として、災害時の役割、防災活動の男女協働について、研修し、その成果を実践するとし、意思決定の場における女性の参画、多大な女性のニーズに応じた支援、女性の視点を反映した避難所運営、その他女性の視点を反映させるための家庭、地域防災対策を掲げました。高松市婦連各地区代表56名、そして香川大学防災危機管理研究センター、高松市危機管理課等の指導助言をもって活動を始めました。

組織は行政との調整などを担当する「総務班」、安心できる避難所運営を研究する「会場班」「食糧・物資班」「心と体の健康ケア班」の4班に分かれ会議や学習会を開いています。

研修とワークショップの開催

- ・災害時の女性の役割
- ・南海トラフ巨大地震への防災対策、避難所運営における女性の役割



視察研修として2013年11月16日には陸前高田市地域女性団体協議会の方たちと交流し、災害時の体験談や、問題点提示などを伺いました。その後壊滅した市街地や、奇跡の一本松など訪れた現地ならではの情報対策を学ぶ貴重な体験を得ました。今後、陸前高田市婦人団体がまとめた問題点、提言等を生かし地域の防災活動に活かしていこうと決意を新たにしました。



高松市女性防災会議と横田地区女性会との交流会 平成25年11月17日



2014年2月4日～5日

防災フェアを開催し、「考えよう、災害時の自助、共助」をテーマに、関係機関、LPガス協会、四国電力、日本電気通信公社、高松地方気象台、高松市上下水道局、NTTドコモ、その他日本赤十字社、高松市女性防災チーム、男女共同参画センター、高松市危機管理課、等の協力を得ました。



考えよう！
災害時の自助・共助

防災 フェア

会場

- 有事の際の炊き出し訓練
(炊き出し実演試食
順計各日先着1,000名様
ご提供)
- 避難所の資材展示
- 被災地支援展
現地研修会の発表



パネル展での女性防災会議の活動報告。

減災対策に女性の視点





関係機関の協力のもと展示コーナー、炊き出しコーナー、避難所運営コーナー等を開設し、この活動を広く県民に呼びかけました。

現在、「安心できる避難所運営ハンドブック」作成を行っています。研究の成果をまとめ、男女共同参画の視点を取り入れた避難所づくりと運営マニュアルを作成完成させたいと頑張っています。今後は女性ならではの特性や生活体験を生かすと共に、積極的に地域での自主防災や避難所運営に参画し協力していき、「向う三軒両隣」を合言葉に、地域のコミュニティカのアップを図っていきたいと思います。

思えば、新潟中越地震の被災地視察に女性官僚が出向いた時、女性用の防災服がなく、だぶだぶの防災服を着用したことから防災にも男女共同参画をと国会に働きかけ、防災会議・対策に女性の参画・視点からの意見を取り入れるようになりました。今後は精神面での支援・対策など新たな課題も出てきました。ガス・電気・水のライフラインが絶たれても、生き抜く命を守るための対策に終わりが無いことと同様、地域支援に根差した私たちの防災活動にもゴールはありません。

< 活動報告 >

さぬき市防災何でも相談に伴う活動報告（第3弾）

(1) H27. 2. 16 (月) 13:30～ さぬき市小田地区

筈張東、筈張西自主防災会 16名出席のもと、自治会館前の広場において、「かがわ自主ぼう」より、都市計画図上に示した、海拔6Mラインと土砂災害警戒エリアの説明を行なった後、東エリアと西エリアのグループに分かれてまちなかウォッチングに出かけました。

避難路もブロック塀を避け、安全ルートで1次避難所を探索することとし、先ほどの海拔6Mと土砂災害警戒エリア外において、安全な場所（施設）を選定した。

筈張東地区は弘海寺、筈張西地区はポンプ場広場を1次避難所として地域皆様も意識合わせを行なった。



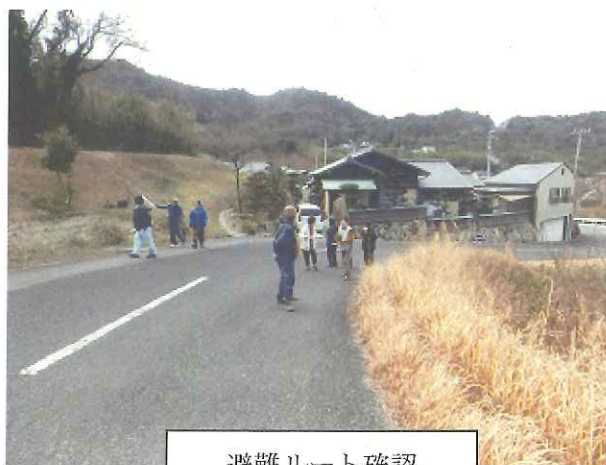
一時避難所をお願いする弘海寺



ポンプ場広場



津波、土砂災害の説明



避難ルート確認

(2) H27.3.7 (土) 13:00～ さぬき市小田地区

坂ノ下自主防災会 20名の皆さん、自治会館に集合。自治会館内で竹内会長より、地域の概要紹介をしていただき、その後、「かがわ自主ぼう」より、都市計画図をもとに海拔6Mラインと土砂災害警戒エリアを説明。

その後、小雨まじりの中、2グループに分かれてのまちなかウォッチング行政から指定を受けている一時避難所の高台にある市営住宅へむかって、ブロック塀や電柱類を避けながらの体験歩行を行なった。



海拔6Mライン



まちなかウォッチング



手作りのおそばをいただきました



意見交換

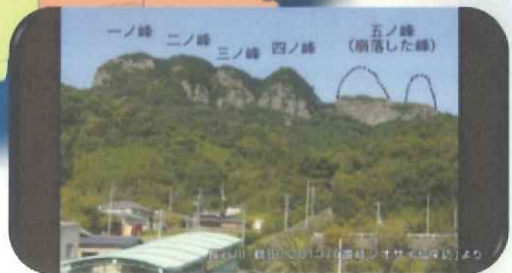
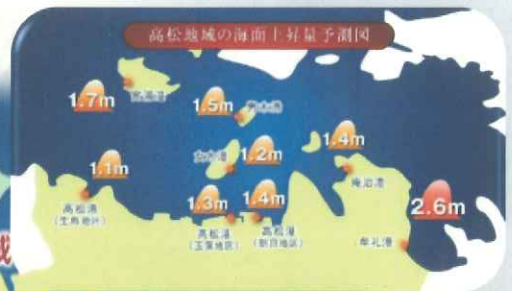
その後、自治会館への帰着。地域の皆さんと意見交換を図った。

- ・ 廃校となった施設を避難所と備蓄ステーションにしたい。
- ・ 備蓄や資機材購入に赤い羽根共同募金のテーマ募金を活用する案、更に安く購入する方法などについて意見を交わした。

南海トラフ地震に関するDVD

地震発生、そのとき…

～南海トラフ最大クラス地震 (M9.0) による
香川県内の被害シミュレーションと減災対策～



今後、30年以内に発生する確率が70%程度と予測されている南海トラフ地震。地震や津波を「正しく知り」、「正しく判断し」、「正しく行動する」ため、最大クラスの南海トラフ地震が発生した際の揺れや津波による被害などについて、県内5エリアに分けて、コンピューターグラフィックスを用いて解説しています。さらに、建物の耐震化、家具類の転倒防止対策など具体的な減災対策について紹介しています。

※インターネットでご覧になる場合は、「かがわ防災Webポータル」からご覧ください。

かがわ防災Webポータル

検索



地震・津波を「正しく知り」 「正しく判断し」「正しく行動する」ために



1. 香川大学危機管理研究センターによる監修・解説

県内で唯一危機管理に関する学術的・技術的な研究を行っている香川大学危機管理センターの白木センター長、香川大学工学部の長谷川教授により、地震・津波への対策などについて、専門的な観点から解説していただいています。

2. 地震・津波の防災・減災対策の必要性

過去を振り返ると、南海トラフ地震はおよそ100年に一度、繰り返し香川県を襲っています。今後、30年以内に南海トラフ地震が70%程度で発生すると予測されているため、事前の備えが喫緊の課題となっています。



3. 南海トラフ地震による地震被害映像

香川県を高松・東讃・中讃・西讃・小豆の5つの地域に分け、予測されている最大震度と被害想定を解説しています。南海トラフ地震による地震・津波によって、家屋倒壊、火災、堤防施設損壊による地震直後の浸水などの様々な被害が想定されており、それらの被害を3次元のコンピューターグラフィックスを用いて解説しています。



4. 具体的な減災対策

地震や津波による被害を少しでも減らすため、建物の耐震化、家具類の転倒防止対策など具体的な対策についてご紹介するとともに、県や市町が行っているハード・ソフト両面での対策についてご紹介しています。

このDVD映像は、県内の各市町、学校、公民館などに配布するだけでなく、インターネットでも配信しています。

是非、ご覧いただき、家庭や地域での防災対策にお役立てください。

※通常版と子ども版(小学校高学年を対象)の2種類があります。

・監修:香川大学危機管理研究センター/制作:株式会社ウィザード/制作著作:香川県
・本編(通常版・子ども版):19分10秒

離任のご挨拶

元香川県理事兼危機管理総局次長・政策調整監 藤沢一仁

この度、3月31日をもちまして退職することとなりました。危機管理総局での勤務は、平成23年4月からの4年間でしたが、この間皆様方には大変お世話になりました。心から、お礼申し上げます。

私は、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災と平成23年3月11日の東日本大震災の後に、神戸市と南三陸町に参りました。神戸市では、神戸市沿岸部での連続立体高架橋の横倒しや神戸市庁舎の6階部分の座屈崩壊、多くの家屋の倒壊現場など、直下型地震の悲惨な状況を。宮城県南三陸町では、公立志津川病院の4階部分までの浸水や骨組のみを残した町防災対策庁舎、多数の住宅が津波で押し流された現場など、海溝型地震の悲惨な状況を目の当たりにしました。今も、目を覆いたくなる様相は、脳裏に鮮明に焼き付いており、大規模な自然の猛威の前には、人間の無力さを痛感させられずにいられてはいましたが、その一方で、隣近所の住民の方々による助け合いにより、多くの命が助けられました。また、「釜石の軌跡」に見られるように、防災教育や防災・危機管理のための人材育成の大切さを強く感じました。



このような状況の中、県では独自の「香川県地震・津波被害想定」を平成26年3月末までに四回にわたり、本県に影響する直下型・海溝型地震について、各地の最大震度や最高津波高をはじめ、死者数、避難者数、被害シナリオなどの予測を公表しました。

これは、今後30年以内に起きるマグニチュード8～9クラスの「南海トラフ地震」の発生確率が70%程度に高まっている中、県民の皆様や地域、企業、行政機関等に地震・津波を「正しく知り」、「正しく判断し」、「正しく行動」することで被害の最小化が図られるよう、それぞれの役割を認識して対策を実施するとともに、相互に連携して、これらの大規模災害に備えていただくものです。

県においても、「住民の防災意識の向上」及び「地域防災力の向上」は喫緊の課題と位置づけ、3月には小学校高学年から高齢者までを対象とした「南海トラフ地震（最大クラス）に関するDVD」の映像を県ホームページで公開する他、防災意識の向上や防災リーダーの育成、建物の耐震化など短期集中的に実施する必要がある、ハード・ソフト両面にわたる防災・減災対策を総合的・体系的に定める「香川県地震・津波対策行動計画」を策定し、「人的被害をゼロに近づける」ことを目指しています。

最後になりましたが、「かがわ自主ぼう連絡協議会」のジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2015「最優秀レジリエンス賞」の受賞、誠にありがとうございます。これまでの貴協議会の県内自主防災組織へのアドバイスや防災訓練の指導など、長年にわたる活動が認められました。今後、益々のご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げます。

元香川県危機管理総局危機管理課 政策主幹兼副課長 秋山浩章

この度の人事異動により、地域活力推進課で勤務することになりました。平成25年4月から危機管理課に配属後、2か年という短い期間ではございましたが、香川県地震・津波被害想定の公表をはじめ、南海トラフ地震・津波対策行動計画の策定、地域防災計画の見直し、防災情報システムや防災行政無線の再整備など、振り返ってみれば、非常に充実した2年間でした。

さて、今後30年間で南海トラフを震源とする地震が発生する確率が70%程度に引き上げられている中、県では、「信頼と安心の香川」を実現するため、県民一人ひとりの生命を守るための防災・減災対策を推進することが喫緊の課題となっております。

その中でも、地域防災力の向上は重要な課題であり、県では、自主防災組織が災害時にその機能を十分に発揮できるよう、実践的な訓練等への助成をはじめ、研修会を通じた自主防災組織のリーダーの育成や、香川大学危機管理研究センターと連携した防災士の養成などに努めているところです。今後も、「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様の御支援と御協力を頂きながら、自主防災組織の充実・強化に、より一層取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

私は、別の部署に異動しますが、行政に携わる者として、微力ながら、防災・減災対策に取り組んでまいりたいと存じます。本当にありがとうございました。

元香川県危機管理総局危機管理課 副主幹 渡邊篤志

2年間という短い期間でありましたが、大変お世話になりました。

平成23年3月に東日本大震災が発生した際には、多くの自主防災組織により、避難誘導や炊き出し等の活動が行われ、こうした大規模災害において、地域の方々の備えとお互いの助け合いが大きな役割を果たすことを改めて認識したところです。

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様におかれましては、各組織のリーダー育成や自主防災組織間の相互連携など、地域防災力の向上に向けて積極的に活動されておりますことに対し、深く敬意を表しますとともに、毎年11月5日（津波防災の日）のシェイクアウトの実施に当たりまして数々の御尽力をいただきましたことに、改めて厚く御礼申し上げます。

また、私事ではありますが、この2年間の危機管理課での経験を活かすためにも、今後、地域の防災活動に少しでも参加できればと考えております。

最後になりましたが、かがわ自主ぼう連絡協議会の今後益々のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を心よりご祈念申し上げます。

元危機管理総局危機管理課 主任 高溝順一

平成24年4月に配属となり、3年間の業務の中で皆様方には大変お世話になりました。皆様方とは防災訓練等で一緒に活動させていただき、ご活躍を目の当たりにするとともに、自分の至らなさを反省いたしました。

4月からは土木部への異動となりましたが、毎年やってくる台風や突然襲ってくる地震などに対して、この職場で生かした経験を活かし、皆様方と協力して防災・減災対策に取り組んで参りたいと考えておりますので、言語とも御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、かがわ自主ぼう協議会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

元危機管理総局危機管理課 主任 篠原有毅

平成24年4月から3年間、大変お世話になりました。

皆様方の御活動は、防災訓練等の機会で見せていただき、大変勉強になりました。近年、大規模な災害が各地で発生し、また、今後、南海トラフ地震の発生も懸念されるなか、地域の安全をお互いに助け合って守る、皆様方の活動はますます期待されるものと思われま

す。他部局への異動となりますが、危機管理課での経験を活かし、防災意識を高く持っていきたいと考えています。

最後になりましたが、皆様方のますますの御発展、御活躍をお祈り申し上げます。

元危機管理総局危機管理課 主任 加古詳平

この度、3年間の危機管理課勤務を終え、異動することとなりました。

県内の自主防災組織の活動カバー率が8割を超える中で、活動の方法や運営に悩みを持つ自主防災組織が多くあり、皆様のフォローアップ活動のおかげで、活性化している組織が増えています。行政も皆様と一丸となり、悩みを抱える組織の声を吸い上げ、相談に耳を傾け、共に活動していくことが、自主防災組織の活動活性化の要諦であると思

います。最後になりましたが、協議会のますますのご発展と、皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

かがわ自主ぼう連絡協議会事務局より、最近の活動紹介とお知らせです。

1. “レジリエンス最優秀賞”受賞！

このたび「第1回ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」において、“レジリエンス最優秀賞”をいただきました。3月15日表彰会場であります、仙台市市民会館に行ってきました。折りしも第3回国連防災世界会議が開催されており、186カ国からの参加者が多数おり、宿泊場所探しが大変でした。

表彰式には、首相夫人並びに強靱化担当大臣もご出席され、ごあいさつと表彰のプレゼンターを努められ、会場に花をそえていました。



三浦会長挨拶



賞状授与

尚、最高賞である「グランプリ」は和歌山県田辺中学校が受賞。帰りに東京駅であらためて、中学校の代表者の皆さんとお会いしました。中学生諸君の目の輝きはとても美しいものでした。

2. 第3回総会を4月16日(木)16:00より開催いたします

かがわ自主ぼう連絡協議会第3回定期総会を、4月16日(木)16:00よりサンポート高松 e-とぴあ・かがわBBスクエアにて開催します。

尚役員の皆さんは15:00より役員会を開催します。

編集後記

今月の防災減災の輪は、香川県婦人団体連絡協議会 野田会長に原稿をお寄せいただきました。ありがとうございました。合わせて、「防災何でも相談」に伴う活動も掲載しております、ぜひご一読ください。